

ごけん

平成24年

春

号

日本語検定 実施予定

平成24年度第1回(通算第11回)

[一般会場] 6月16日(土)

[準会場] 6月15日(金)・16日(土)

[申し込み期間] 3月1日(木)~5月18日(金)

後援：文部科学省
日本商工会議所
経団連事業サービス
全国連合小学校長会
全日本中学校長会
全国高等学校長協会
全国高等学校国語教育研究連合会
全国高等学校PTA連合会 他

特別協賛：読売新聞社

協賛：時事通信社/東京書籍



もくじ

ごけんインタビュー 川村二郎	2
ごけん情報板	4
採点室から	5
第3回日本語大賞 表彰式	6
こんなに面白い! 日本語の方言 ①	7
受検団体の声	8
にほごん にほごん劇場	10
受検案内/プレゼント・クイズ	12

日本語検定公式キャラクター「にほごん」

特定非営利活動法人

 日本語検定委員会

思考力も判断力も国力も 全ては日本語力に比例する

川村 二郎

かわむら じろう

日本語検定委員会審議委員。「週刊朝日」編集長、朝日新聞編集委員などを歴任した文筆家。主な著書に『孤高一國語学者大野晋の生涯』（東京書籍、2009年）、『夕日になる前に—だから朝日は嫌われる』（かまくら春秋社、2010年）など。



日本語は日本人にとってコミュニケーションのツール、道具だ、という人がいる。とんでもない誤解である。

では何か。

日本語は、日本に生まれた子供が愛情をもって育ててくれる人たちから口うつしで学ぶ、母語である。母語は、パソコンや光ファイバーや電線のような道具ではない。精神そのものである。これは、作家の井上ひさしさんから、何回となく言われたことだ。

文化勲章作家の丸谷才一さんには、嘸みくだいて、「日本語できちんとした文章が書けない人や話すことのできない人が、英語ならできるなんて、そんなバカな話はないよ。常識で考えれば、わかることじゃないか」

と言われた。「道具」と言ってよいの

は、第二外国語、第三外国語です、という説明だった。

こういう、日本語を大切にすることでは横綱と言ってよいお二人が、辞書をひいてもわからない時に相談をしたのが大野晋さんだった。2007年に「日本語検定」が始まる時、「監修」を務めた国語学者である。

大野さんは『広辞苑』の初版で、「なる」とか「する」とか、助詞の「は」や「が」など意味が多くて深い基礎語と呼ばれる単語約千語の定義をし、『岩波古語辞典』では約二万語の定義をした。日本語を通して日本人とは何かという研究に、生涯を捧げた学者だ。

大野、丸谷、井上の三氏に共通するのは、「人間を家にたとえると、母語は土台である。土台がしっかりしていなければ、

いい家は建てることができない。土台がもろいと、ちょっとした地震でも壊れてしまう。日本人は、土台作り心血を注がなければならない」

という考えだった。筆者は幸運なことに、折にふれてお三方に教えを乞うことができたから、これは自信を持って言うことができる。

日本語検定の監修をするにあたり、87歳の

大野さんは、「川村さん、日本は戦争に負けて頭の中までアメリカの植民地にされちゃったんだよ。安易にカタカナ英語を使うのは、日本語が出来なくなったからじゃないか。頭の中を植民地から解放するためには、日本語をきちんと教えて、正確に使えるようにすることしかないさ。そのためなら、僕は何でもするよ」

と言われた。憂国の情に溢れ、口ぶりには悲愴感があった。筆者には遺言のように聞こえたが、その翌年、大野さんは88年の生涯を閉じた。

大学生が「お馴染み」を「同じみ」と書き、「神のみぞ知るだよ」と言えば、「カミのみぞ汁って何ですか」と聞く若者がいる。メディアも「日本語を磨こう」という意識を失くし、幼稚園の子供から政治家にいたるまで、二言目には「頑張ります」と言う国になってしまった。3.11 東日本大震災と原発の事故によって、この国が崩壊していることは誰の目にも明らかになった。

土台作りには国語力が不可欠であることは、人間も国も同じだろう。日本語検定は、土台作りの第一歩である。

大至急、土台作りをしなければならない。

政治家やジャーナリズムを志す者には検定2級以上の資格を求める。選挙権は3級以上の者に与えることにする。そういう荒療治が必要なのではないかとさえ思っている。司馬遼太郎さんの言葉を借りれば、「なによりも国語」なのだから。

開講予定 洒落たおとなのための日本語学 ～教養としての日本語を嗜む～

講師：川村二郎

場所：学習院生涯学習センター

講義日程：*すべて13:00～14:30

6/20（水）言葉と日本文化

7/4（水）メディアが日本語をこわす

7/18（水）“一流”と呼ばれる人々の言葉（司馬遼太郎、大野晋、王貞治など）

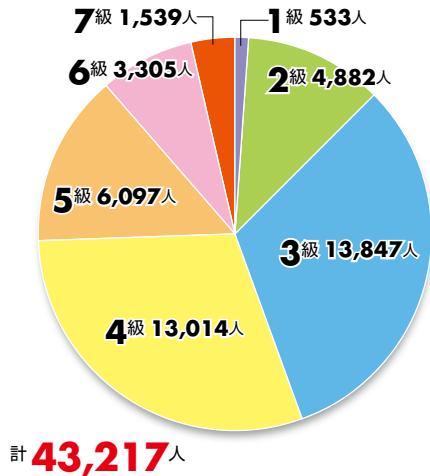
詳しくは、学習院生涯学習センターまで（03-5992-1040）

ごけん情報板

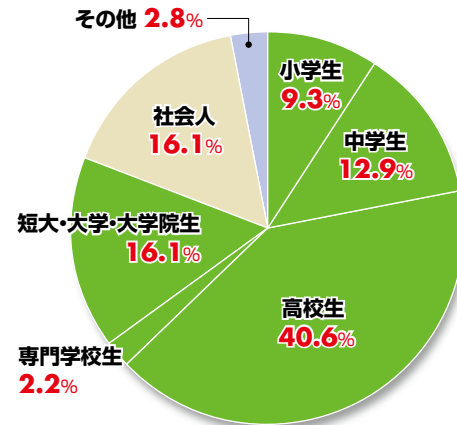
日本語検定は今年、6年目を迎えます。このコーナーでは、昨年11月に実施いたしました、平成23年度第2回（通算第10回）日本語検定について、各級の受検者などのデータをご紹介します。

◎平成23年度第2回（通算第10回）

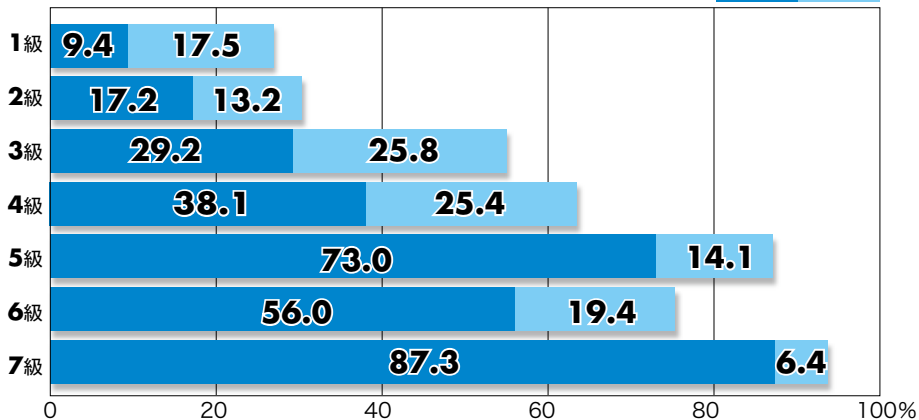
■受検者総数と級別受検者数



■受検者の学校・所属別割合



■各級の認定率



採点室から

「この日本語、どこかへん？」

23年度第2回の問題より

日本語検定では、2級から6級で、次のような「言葉の適切な使い方」を問う問題を出題しています。

ふだんよく見かける言葉でも、その意味や使い方を誤って覚えてしまっているということもあるようです。問題の一部をご紹介します。

☆問い 次の言葉を適切に使っている文はどれでしょう。

■6級より

【よってたかって】

1. すずめがよってたかって電線にとまっている。
 2. よってたかって小さい子をいじめるなんて許せない。 (答え：2—正答率56.2%)
- ★おおぜいが寄り集まってという意味を表し、よくないことを言うのに使われることが多い言葉です。

■5級より

【とりわけ】

1. 好きな科目はいくつかありますが、とりわけ国語が好きです。
 2. 好きな科目はあまりありませんが、とりわけ国語が好きです。 (答え：1—正答率59.2%)
- ★2は、「しいて言えば」などが当てはまる文です。

■4級より

【言わずもがな】

1. 君には言わずもがなと思って、急いで伝えに来たよ。
2. みんな知っているのに、どうして言わずもがなのことを言うのか。 (答え：2—正答率58.2%)

★分かりきっていて、今さら言う必要がないという意味を表す言葉です。

■3級より

【公算】

1. 日本銀行によれば、円高は長期化すると公算されている。
2. 野党が方針を転換したため、法案が今国会中に成立する公算が大きくなった。
3. 今回と同様の事故が発生した場合に周辺環境に与える公算を考えれば、計画の見直しは免れないだろう。 (答え：2—正答率45.9%)

★1は「予測」など、3は「影響」などが当てはまる文です。

■2級より

【如才が無い】

1. 彼は如才が無い人だから、上役の受けもいいし、同僚の評判も悪くない。
2. 彼は如才が無い人だから、自分の主張を曲げることができず、上役から煙たがられている。
3. 彼は如才が無い人だから、金の貸し借りには気をつけなくてはいけない。 (答え：1—正答率47.8%)

★2は「融通が利かない」などが当てはまる文。3は「信用できない」などの悪い意味で使っているようので、的外れな文です。

いかがですか。間違えやすいものを挙げてみました。

言葉の正しい使い方を身につけるのに、日本語検定が少しでも役に立つことを願っております。

人への「思いやり」と「感謝」を

第3回日本語大賞 表彰式

日本語の美しさや言葉のもたらす力を見つめ直す「日本語大賞」(主催:日本語検定委員会)の第3回表彰式が2月26日、最優秀賞受賞者4人らが出席して東京・北区の東書ホール(東京書籍本社)で行われました。

第3回のテーマは「人と人をつなぐ日本語」。海外からの176点を含めて小学生の部361点、中学生の部557点、高校生の部564点、一般の部274点と、第2回を600点以上も上回る計1756点の応募がありました。第1次、第2次の審査を経て、審査委員11人による最終審査が行われ、4部門それぞれの最優秀賞1点、優秀賞3点、佳作5点が決まりました。



最優秀賞

- 小学生の部 柏崎 日向子 「おれいのきもち」
パリ日本人学校 小学部1年生
- 中学生の部 長沼 夏帆 「感謝が結んだ絆」
陸前高田市立気仙中学校 3年生
- 高校生の部 上岡 彩乃 「父と母からの贈り物」
横浜市立ろう特別支援学校 高校2年生
- 一般の部 山内 千晶 「『おかげ様』の向こう側に」
福岡県筑紫野市

表彰式は、審査委員でフリーアナウンサーの梶原しげるさんの司会で進行しました。主催者を代表して梶田叡一理事長が全体講評で、「日常生活の中ではよほど気を付けないと、日本文化を支えてきた日本語本来の持つ美しさや豊かさが損なわれがち。そういうことがないように日ごろから心掛けていくことが大切」とした上で、「受賞作品は非常に感動的で、素晴らしかった。もっと多くの人に知ってもらいたい」などと述べました。

(時事通信:牧俊朗)

最優秀賞と優秀賞の作品は、日本語検定公式ホームページでご覧いただけます。(最優秀賞の作品は、朗読もお聴きいただけます。)

こんなに面白い!

日本語の方言¹

山田 敏弘

「なつまらこわい」
「で一れ一えれ一」
「ぱりたいぎい」…

みなさん、これが日本語だと言ったら驚きますか。実は、これらはすべて日本語で、「ともしんどい(疲れている)」という意味を表します。ただし、北海道方言、岐阜方言、広島方言でということですが。

北海道や東北地方の「こわい」は、雪かきなどをして疲れたときに使います。赤飯を「おこわ」というように、「こわい」には古く「固い」という意味もありました。そこから疲れてこわばった状態を表すようになったと考えられています。

東海地方などでは「えらい」と言います。「えらい」も「偉い」と勘違いされがちですが、こちらは「いらいら」の意味の「いら(苛)」が形容詞になったもの。精神的にまいっている様子が表れています。ちなみに程度を強める「で一れ一」も「どえらい」から派生したものです。

広島などでよく使われる「たいぎい」は、「大儀」、つまり「重要な儀式」が語源です。それをこなすのは面倒で疲れるということから、形容詞化して「たいぎい」となりました。

このような素朴な心情を表す方言は、ほかに、各地に多様に見られます。

関西で使われ最近では東京でも使われるようになった「しんどい」は、「心労」から。精神的な疲れを意味したものが、今では肉体的な疲れをも意味するようになりました。では、昔からの東京方言ではどう

でしょうか。方言辞典には、東京などで「くたびれた」とありますが、これは、過去形。「何かの動作をして疲れた」という結果的な状態です。軽い身体的な苦しさは表現しにく

い。それでは不便ということで、関西方言から「しんどい」を取り入れて使うようになったというわけです。東京の言葉は、各地の方言から表現を補充することで、今も作られつつある言葉なのです。

一方、方言では、「恐い」「固い」「いらいら」「大儀」「心労」など、さまざまな言葉が少しずつ意味を変え、「疲れた」「しんどい」を表すようになったことがわかります。ここには、日本人の発想の豊かさが感じられます。私自身は岐阜県出身です。岐阜県内の方言集を見ただけでも、「疲れた」「しんどい」を表すことばには、先に挙げた名古屋方言と共通の「えらい」のほか、「(為す)術がない」から来ている「ずつない」、共通語でも「もの憂い」などと使われる「うい」、語源不詳の「てきない」など、いくつか見られます。まさに、方言は発想の宝庫なのです。

さて、こんな方言ですが、何かの役に立つのでしょうか。実は、役に立つのです。平安時代の『竹取物語』には、「この幼き者は、こはく侍る者にて、対面すまじき」とあります。「幼い者」が「恐い」では通じません。『新日本古典文学大系17 竹取物語 伊勢物語』p.52には、「強情な」と意味が書いてありました。「頑固」から「固い」につながる意味ですね。

方言を通じて言葉の意味を広く深く知り、豊かな語彙を育てていきたいと思います。

やまだ としひろ/ 岐阜大学教育学部 シニア准教授。
専門は日本語学。博士(文学・大阪大学)

成長の機会としての日本語検定

大阪桐蔭中学校・高等学校 中條 宏先生



本校では、ずっと日本語検定を活用しております。中1から高2までの生徒が、4級から始まって3級、2級と上ってゆく中で、日本語への知的関心が旺盛になり、国語力の確実なアップにも繋がっています。

このたび（平成23年度）、1級合格者（高1・木原清香さん）を出すことができました。彼女は「時事通信社賞・最優秀賞」を受賞し、さらに3名（2級で高1生2名・中3生1名）が「時事通信社賞・優秀賞」を受賞、団体表彰では本校が「日本語検定委員会特別賞」をいただきました。

大阪桐蔭中学校・高等学校には、「毎日課題」というシステムがあります。主に英語・数学の指定範囲を自主的に学習し、問題に解答して、さらに解答例と照らし合わせて自己添削したノートを、授業のある日は必ず毎日続けて提出。各クラス担任によってチェックを受けてすぐに返却というものです。着実に力がついてゆきます。

木原さんの1級合格という快挙の背景には、この毎日課題方式を応用した、努力研鑽があります。毎日毎日、コツコツと彼女は朝一番に「日本語検定1級対策ノート」の自主提出を続けました。頭が下がります。それは大阪桐蔭の学習のありかたの一つの象徴であったと言えます。彼女は、そうして自分に克ち、難関を突破したのです。

成長には、「真似る」「競う」「挑む」「認められる」の四大要素が不可欠と聞きます。日本語検定には、それらが全て揃っているのです。成長の機会を与えていただいております。

国際社会で活躍するためには、 まず日本語を

大分県立大分豊府中学校 小坂 吏香先生



本校は、県内唯一の公立の併設型中高一貫教育校で、「国際社会でリーダーとして活躍できる人材」の育成を目指し、言語活動の充実を研究テーマに掲げて、確かな学力と豊かな人間性を養う教育の推進に努めています。確かな学力の基礎となるのは国語の力であり、それを培うために日々の実践を行っています。日本語を正しく使えるということは、自らの思考及びその深化を助け、他者とのコミュニケーションを支える重要な要素であることを、授業ではもちろんのことですが、あらゆる機会を捉えて発信しています。

語彙力を高めるために、授業前に実施している「豊府タイム」（朝読書+英国数の学習時間）で、毎朝10分間、語彙や文法、慣用表現等の基礎学習トレーニングを地道に積み重ねています。また、自主的に力をつけようとする姿勢を育てたいと、検定試験への挑戦を推奨しており、希望者による土曜日の学習講座「土曜寺子屋」でも、各種検定対策の講座を設定しています。生徒たちは互いに、競争意識と「皆で合格しよう」という仲間意識を持って、学習に励んでいます。

日本語検定は、日頃の取り組みの成果を測ることのできる有効な手段の一つです。特に、受検した生徒はバランスの良い日本語力を身につける大切さを実感しています。また、実生活のさまざまな場面で経験する6分野であるので、これからも「国際社会で活躍するためには、まずは日本語を正しく使えることが重要である」と発信しながら、日本語検定に向けて頑張らせたいと思っています。

大学における初年次教育の一環として

梅花女子大学 教育支援開発センター長 菅本 大二先生

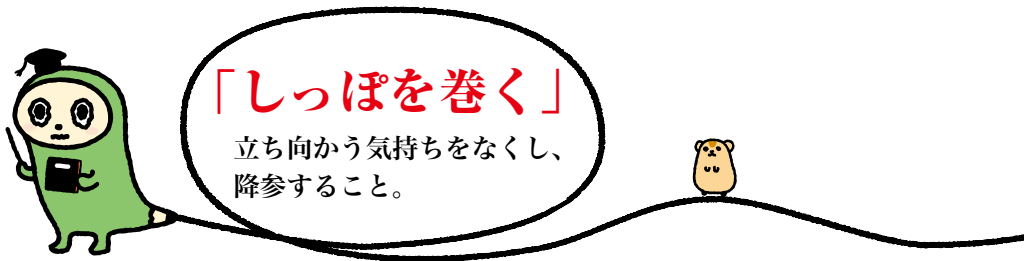
梅花女子大学では、「BAIKA セミナー」という授業を、一年次前期の初年次教育として、2009年度から実施しています。副題は「スタディライフバランスの充実」。大学での学びと学生生活を順調にスタートできるように配慮した授業内容です。他大学では基礎ゼミと呼ばれる授業内容に該当するものです。ちなみに「スタディライフバランス」とは、「ワークライフバランス」をもじった本学でしか通用しない造語です。初年次教育のローガン表現する言葉としてぴったりだと考えています。開始して3年目、その効果は確実に現れています。「BAIKA セミナー」では、第一義の目的として、高校までとは違う

大学での就学環境に慣れることをあげ、授業15回のうちの前半をそれにあて、後半は4年後の卒業に向けて、自らキャリアを開発するきっかけとなる授業内容を提供しています。

そして、この後半部に関連づけ、「資格・検定にチャレンジしよう」という試みを実践しており、2年目、3年目は「日本語検定」への挑戦一本に絞りました。授業に日本語検定委員会の正規の模擬試験（団体特別試験）を取り入れ、11月の受検を目指すという方向で取り組んでいますが、合格率という点では苦戦中です。そこで、鉄は熱いうちに打てということで、本年度から入学予定者向けの入学前プログラムのテキストとして「ステップアップ日本語講座」を採用しています。



にほんご にほんご劇場



平成 23 年秋号掲載の浅川哲也先生ご執筆「知らなかった！ 日本語の歴史3」にミスプリントがございました。ここに訂正してお詫び申し上げます。

平成 23 年秋号 6 ページ右段 15 行目
 誤：「御め目は細々として」 → 正：「御目は細々として」

時事通信社の専門情報誌

60 年余にわたる実績と信頼

内外教育 厚生福祉
 地方行政 税務経理
 金融財政 Business

週2回お手元にお届けします

- 内外の一流執筆陣、第一線記者らの的確な解説と迅速な情報
- 実務家のためのノウハウ、実例を満載、資料・データも豊富

時事通信社 104-8178 東京都中央区銀座5-15-8 www.jiji.com お問い合わせは 事務局 事業部 jigyokikaku@grp.jiji.co.jp

教育における能力と可能性を導く最前基地となることを目指して
 さまざまなシーンをサポートしてまいります!

学力調査 特別支援教育 教育シンポジウム 教育機関誌
 意識調査 体力テスト 学校評価 授業評価 教員研修

エデュフロント 企画・制作/コンピュータ処理・運用 学習調査エデュフロント

本社 〒114-0004 東京都北区廻船 2-17-1
 Tel: 03-5390-7556 Fax: 03-5390-7583
 http://www.edufront.co.jp/

教育の印刷・信頼の技術
 株式会社リーブルテック

教科書印刷で培った
 知識と技術を未来へ伝える

王子本社：〒114-0004 東京都北区廻船1-23-31 tel: 03-3927-6411(代)
 埼玉工場：〒347-0004 埼玉県加須市西川2-3-1 tel: 0480-66-4761
 http://www.livretech.co.jp/

平成24年度 第1回 日本語検定 受検案内

- [一般会場] **6月16日(土)**
[準会場] **6月15日(金)・16日(土)**
[申し込み期間] **3月1日(木)～5月18日(金)**
[実施都市] 全国の100都市以上で実施予定

[受検級の目安と受検料]

受検級	受検料	社会人	大学生	高校生	中学生	小学校 高学年	小学校 中学年	小学校 低学年
1級	6,000円							
2級	5,000円							
3級	3,500円							
4級	2,000円							
5級	1,500円							
6級	1,500円							
7級	1,400円							

※1級の受検には、2級認定が条件となります。

公式ホームページ <http://www.nihongokentei.jp>

プレゼント・クイズ

問題：「にほんご にほんご劇場」で取り上げた慣用句は何でしょうか。○の部分を書いて完成させてください。

『○○○を巻く』

抽選で5名様に、オリジナル『にほんごバッジ』と『にほんご絵はがき』セットをプレゼントいたします。はがきに、クイズの答えと、お名前、性別、年齢、ご住所、ご連絡先（お電話番号またはメールアドレス）を明記のうえ、日本語検定委員会までお送りください。平成24年7月1日の消印まで有効です。当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます。

（応募の際の個人情報は、本プレゼント以外では使用しません。）



特定非営利活動法人

 **日本語検定委員会**

〒114-8524 東京都北区堀船 2-17-1

[お問い合わせ先] **0120-55-2858**

<http://www.nihongokentei.jp>

ごけん 平成24年春号 (No.11)